I 宮城県農作物病害虫及び雑草防除実施方針

第1 趣旨

近年、気候変動に伴う特異な病害虫の発生や栽培様式の多様化に伴う新たな病害虫の顕在化、さらには病害虫及び雑草において農薬に対する抵抗性の出現等が問題となっている。また、環境保全型農業の推進に当たっては、生態系や環境に配慮した農業生産の取組が求められている。したがって、病害虫及び雑草の防除においては、農薬への過度の依存を低減しながら効果的な防除対策を図るとともに、農薬の適正使用について指導を一層強化する必要があることから、本県の防除実施方針を定める。

第2 病害虫防除

(1) 病害虫の発生しにくい環境づくり

農作物の栽培を行うに当たっては、病害虫の発生動向、土壌や気象等の栽培環境を考慮した上で、土づくり、施肥、雑草防除、品種の選定等を適切に行い、病害虫の発生しにくい環境づくりに努める。

(2) 発生予察情報に基づく防除

防除の実施に当たっては、農作物の生育状況及び病害虫の発生動向を十分に把握するとともに、県が発表する病害虫発生予察情報をもとに適期かつ適切な防除手段を講ずるよう努める。

(3) 要防除水準に基づく防除

病害虫の被害程度の許容範囲(要防除水準)が設定されている病害虫については、その発生程度を把握した上で防除の要否を判定し、過剰な防除の防止に努める。

(4) 農薬耐性菌・抵抗性害虫対策

使用農薬の選定に当たっては、同一系統の農薬の連用を避け、農薬に対する耐性菌及び抵抗性害虫の出現を未然に防ぐように努める。また、農薬への耐性や抵抗性が確認されている病害虫については、有効な農薬を選定し、効果的な防除対策を講ずる。

(5) 化学合成農薬に依存しない防除の推進

天敵製剤や微生物製剤、性フェロモン剤等を利用した生物的防除や耕種的防除、物理的防除等の導入を積極的に進める。

(6) その他

作物ごと及び対象病害虫ごとの防除については、別に定める「宮城県農作物病害虫・雑草防除指針」を参考に実施する。

第3 雑草防除

(1) 雑草の発生しにくい環境づくり

中耕や培土、耕起等を適正に行うとともに、田畑輪換により雑草の発生量を抑制するなど、雑草が発生しにくいほ場の管理に努める。

(2) 効率的な除草剤の使用

雑草の草種及び除草剤抵抗性雑草の発生状況を的確に把握した上で、有効な農薬を選定するとともに、適期の施用により過剰な防除の防止に努める。

(3) その他

作物ごとの防除については、別に定める「宮城県農作物病害虫・雑草防除指針」を参考に実施する。

第4 農薬安全使用対策の推進

(1) 農薬の安全使用

農薬の使用に当たっては、別に定める「宮城県農作物病害虫・雑草防除指針」を参考とし、その安全かつ適正な使用に努める。

(2) 危害防止対策

防除に当たっては、作業従事者の安全対策を徹底するとともに、周辺環境に対する危害防止対策について十分な配慮を行う。特に、共同一斉防除を実施する場合は、周辺への飛散、防除機の騒音等を考慮した上で実施地区を決定する。さらに、地域住民及び公共施設等の関係者に対し、実施に際しての理解や協力を得るよう、事前の連絡を密に行い、危害防止に関する広報等の徹底に努める。

(3) 農薬の管理

農薬の保管に当たっては、必ず鍵のかかる場所に保管する等、盗難や紛失を防止するため保管管理の徹底に努める。

第5 その他

本実施方針のほか、必要な事項については、別に定める。

附 則

この実施方針は、平成14年2月14日から施行する。

附 則

この実施方針は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この実施方針は、平成17年6月14日から施行する。

附 則

この実施方針は、平成18年3月20日から施行する。

附 則

この実施方針は、令和5年10月16日から施行する。